

2021 年度(令和3年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番26	福山市立 東朋中 学校
最終更新日	2022年(令和4年)2月22日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○学校関係者評価会議とあわせて3回の授業参観を行った。実際に児童生徒の様子を見ながら評価できたことはよかった。</p> <p>○学校が進めている授業づくり「子ども主体の学び」について、積極的に情報発信をする。</p> <p>○評価指標のアンケート項目の内容について、達成の状況がわかる内容にすること等より分かりやすくなるよう工夫・改善してほしい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○「子ども主体の学び」に向けた取組により、自ら課題に取り組みようとする姿が見られる。一方で、自分の思いを表現する姿や自ら考えて行動する姿が十分に見受けられない。</p> <p>○これまで、児童会・生徒会による交流などを通して、児童生徒の繋がりがもてていたが、昨年度は児童生徒が交流する機会がもてなかった。</p> <p>○小中学校ともに体力テストの記録が下がる児童生徒が多かった。自粛が多く、運動の機会が減っていることが要因の一つとして挙げられる。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>○課題発見解決能力 ○チャレンジ精神</p> <p>○コミュニケーション能力(自己効力感) ○思いやりと感謝の心(地域貢献)</p> <p>○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる</p> <p>○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など)</p> <p>○体力や健康についての自己課題の解決</p> <p>○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実</p>
---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会に貢献できる自立した生徒(=「自立貢献」の生徒)の育成</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>課題発見解決能力</p> <p>よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす。</p>	<p>コミュニケーション能力</p> <p>互いを認め、よりよい人間関係を形成する。</p>	<p>チャレンジ精神 (自己効力感)</p> <p>自分に必要な挑戦を選択してやってみる。</p>	<p>思いやりと感謝の心 (地域貢献)</p> <p>人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる。</p>
<p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <p>○新型コロナ渦の中でも「学校生活で達成感や喜びを感じる。」割合が82.9%であった。しかし、他者との対話的な活動の機会が少なく、「自分には良いところがある。」と思っている生徒は、68.9%と、自己肯定感や自己有用感が伸び悩んでいる。</p> <p>○相手の気持ちを想像する力が弱く、相手との距離感も分からず、生徒間トラブルは少なくない。</p> <p>○「ボランティア活動に参加したことがある」生徒の割合は約44.0%である。新型コロナ渦の中においても生徒が主体的にできるボランティア活動の工夫が必要である。</p> <p><授業></p> <p>○「授業が分かる」生徒割合は80.1%であるが、「授業で考えることが面白い」生徒割合は61.4%と開きがある。生徒が主体的に思考する場面を作り切れていない。</p> <p>○「自分の考えは認められている」と答えた生徒は、68.0%であり、生徒間の対話的な学びの工夫が必要である。</p>	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>生徒一人ひとりの深い学びを実現するための主体的、対話的な教育活動の工夫</p> <p>内容等</p> <p>○SDGsの視点をもりこんだカリキュラム・マップ、単元指導計画の研究 ○教育活動全般を通じての育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)の向上度合の検証</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>○全ての生徒が主体的に課題を見出し、解決策を講じながら、より深く学びに浸れる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを整理し、論理的に表現できる。 他者の考えや意見に思いを馳せながら、共感し、尊重できる。 ICTの活用による情報等の収集を通じて課題解決や既習内容の補完ができる。 各教科・領域がSDGs(持続可能な開発目標)の視点で結ばれ、学びを通じて自分、地域・社会の現状や将来を考えられる。 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	〇〇達成 評価評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	〇〇〇 評価 評価	総合 評価	改善方策	
5	主体的に 学ぶ授業 づくりを 進め、確かな 学力を つける	★	継続	課題を発見し、仲間と協力して解決しようとする“学びに向かう力”の育成	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、生徒が主体的に情報を収集したり、共有したりする学習の構築 グループ活動やペア活動を通してコミュニケーション能力を高める授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTを活用した活動が学びの深化に役立っている」50%以上 「授業で考えることが面白い」85%以上 「授業が分かる」90%以上 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ICT 端末を使用して調べたり、課題を提出したりする状況であるため、職員研修を通して、端末を活用して、生徒同士が意見を交流したり、考えを深めたりする授業力の向上をめざす。 「全国学力・学習状況調査」の分析を研究部中心に行い、各教科の弱点を分析し、授業内容に組み込み習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTを活用した種か学びの深化に役立っている」97.4% 「授業で考えることが面白い」85.5% 「授業が分かる」95.3% 「全国学力・学習状況調査」正答率：国語63%（市平均±0）、数学53%（市平均±0） <p>学力調査の結果から本校の課題である「書く力」を高めるために「書く活動」の時間を増やした。</p>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ICT端末の使用が目的ではなく、深い学びを行うための手段になるように、今後も研修を行う。 令和5年度から始まる広島県公立高等学校入学選抜の学力検査、自己表現（自己を認識する力、自分の人生を選択する力及び表現する力）に向けて、「学力の伸び調査」で課題となった思考・判断・表現力（書く力）の向上に向けて、総合的な学習の時間と系統性をもたせた各教科の授業の組み立て、発問・指示の在り方について日常的に教員間で議論し共有していく。
				読書に親しみ、根拠を基に自分の考えを示すことができる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習などに図書本を活用した学びづくり 学校行事、生徒の興味関心に適応した図書コーナーの設定 図書委員会の活動を充実させ、読書に親しむ習慣づけの促進 	<ul style="list-style-type: none"> 「読書を通じて、考えの整理や伝える力が高まった」50%以上 「図書コーナーの設置が役立っている」70%以上 「読書がより好きになった」70%以上 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間の確保。図書委員の活動を通して、様々な本を紹介・推奨していく。 図書コーナーの設置により興味深く足をとめて読む生徒を目にする。季節や行事・教科に合わせてコーナーを活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読書を通じて、考えの整理や伝える力が高まった」82.9% 「図書コーナーの設置が役立っている」68.1% 「本を読んだり活用したりすることが好きである」66.9% <p>7月のアンケート結果と比較して肯定的意見が減少した。</p>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員の声かけにより、各クラスから購入希望本のリストを作成し、興味・関心がもてる図書の充実を努めた。 図書室の開館日を週3日から5日に増やした。これにより、図書室の利用者を増やし、読書に親しむ生徒を育てる。 図書コーナーの刷新を行う。そのために事前に図書コーナーに関する全校アンケートを図書委員が行い、生徒のニーズに合ったコーナーづくりを目指す。 「学級文庫づくり」を図書委員が中心となって行う。
4	自己肯定感・自己有用感を向上させる		継続	校内外ボランティア活動の推進による主体性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア委員会が中心となり、様々な活動を企画し、仲間とともに主体的に参加できる活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 「ボランティア活動に参加したことがある」85%以上 「住みよいまちづくりに貢献できた」50%以上 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 既存のおやじの会や資源回収だけでなく、日常の中でできるボランティア活動を仕組む。 校内ボランティアの取組の成果が視覚的に分かるように掲示物を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ボランティア活動に参加したことがある」57% 「住みよいまちづくりに貢献できた」82.2% 「おやじの会美化作業に生徒120名参加、PTA本部役員OB含め大人27名参加。 コロナウイルス感染症の拡大等を考えて、自宅にある資源を朝、ボランティア委員が分担当を決めて正門で回収する。 多くの参加があったクラスを表彰するなど新たな取り組みに挑戦中である。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日の「資源回収」の定例化と放送による事前のお知らせ、事後の成果の報告と次回のお知らせを引き続き行う。 ボランティア委員としての意識を高めるために、どのようなボランティアが自分たちでできるかをクラスに投げかけて一緒に考えるようなアンケートをとる。

		★	継続	生徒の個性の違い・努力を認める取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学級の話合い活動の充実 多様な社会状況に目を向け、LGBTQ等についての理解に向かう人権教育の充実 道徳教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「お互いの考えや意見が大切にされていると感じる」70%以上 「お互いの個性を尊重することは大切だと思う」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「お互いの考えや意見が大切にされていると感じる」94.4% 「お互いの個性を尊重することは大切だと思う」98.5% 授業や活動の際に意見交流の際にお互いの意見を認め合うような活動を実施した。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、活動に取組み意見を交流したり、考えを深めたりする学びの中で、認め合える活動を仕組む。 お互いの意見を対話しながら、1つの意見としてまとめる中で、個性を尊重できる活動を仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お互いの考えや意見が大切にされていると感じる」94.1% 「お互いの個性を尊重することは大切だと思う」98.7% 引き続き授業活動の中でお互いの意見を尊重できるよう取り組み、「お互いの考えや意見が大切にされていると感じる」は-0.3%、「お互いの個性を尊重することは大切だと思う」は+0.2%の結果になった。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「ちょっとしたこと、当たり前に行えること」を確実に評価していく。また、選択課題を行うことで、周囲からの評価に繋がるように育てる。 ラミネートを使った写真を掲示することを継続することで、自己肯定感を育てる。 3年生が縦割りで他学年に関わり、様々な方法で気持ちを伝えたりすることで上級生の自信を深める。 ロイロノート（ICTアプリ）を活用し、道徳の授業において、多様な意見があることに気付かせながら一人ひとりの考えを尊重する機会をつくっていく。
5	自ら、体力づくりや健康づくりに取り組む生徒・職員を育てる	★	継続	健康の維持増進に向けた取組の継続	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会が主体となった健康づくり活動の充実 保健便り等を活用し啓発活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「その日の内に寝て、睡眠7時間以上及び朝食をとった」生徒85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「その日のうちに寝て、睡眠7時間以上及び朝食をとった」生徒79.8% 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員や保健だよりを通じて健康づくり活動の啓発、充実をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「その日のうちに寝て、睡眠時間7時間以上及び朝食をとった」73.3% 保健委員会を中心に睡眠を阻んでいるメディア利用時間について呼びかけた。 懇話時にネット利用に関する資料を紹介、保護者への啓発を行った。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育、家庭科、特別活動、道徳などの様々な教科において睡眠の重要性や役割、規則正しい生活を送ることの大切さを伝えていく。 家庭の協力が得られるように、懇談やたより等で、生活リズムの改善の必要性を伝えていく。
			継続	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 職員の業務改善による、計画的な業務の遂行（分掌会の実施） 部活動指導日を、月単位で申請し、業務バランスの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間外在校時間が月45時間以内の職員85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 4月～8月までの期間で、月45時間以内の教職員は50% 部活動の大会前に練習試合等長時間の指導が連続し達成を阻んでいる。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 隔週を目安に学年主任会を校定し、進捗状況等の確認を行う。 大会前の繁忙期でも、時間外の部活動は月8時間以内とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～1月までの期間で、月45時間以内の教職員は、81.5%で8月までの前半より31.5ポイント上昇した。 コロナのため部活動が中止となるが多かったが、新人戦前の時期も、退校時間を意識した業務遂行が出来ている。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 業務が個に集中しないように、今年度組織的に分掌を機能させた以上に、若手を育成しながら業務改善に努めていく。
7	安全で安心できる学校を実現する		継続	生徒・保護者の学校満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの心に寄り添った生徒、保護者との相談体制や学級の情報提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のICTを活用した情報発信 「安心して通っている」生徒95%以上 「安心して通わせている」保護者95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「安心して通っている」生徒93.6% 「安心して通わせている」保護者96.5% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや全員面接を実施し、生徒の悩みを聞く機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「安心して通っている」生徒92.9% 「安心して通わせている」保護者93.7% 東明昇降機の発行時には、必ずHPの更新を行った。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 全員面談を実施し、生徒の悩みを聞く機会を増やす。 Chromebookを活用した学校行事の在り方を工夫し、学校生活の様子を保護者が具体的に確認できるシステムを構築する。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。